

## 2009 年度システム技術分科会第 1 回会合 「システム運用と Open Source」

- 日時 : 2009 年 9 月 8 日(火) 13:30~17:20
- 場所 : 汐留シティセンター 24 階 富士通大会議室
- 開催趣旨 :

近年、大学や研究機関などの組織において、多くのサービスが電子され、そのシステムの運用管理が重要になってきました。さらに、近年の、サービス品質、信頼性の向上への要求によって、これらのサービスの運用管理形態、体制は、数年前のそれから変化しています。特に、信頼性の面では著しく向上した商用パッケージ等の登場により、従来センターのスタッフが自ら全てを行っていた形態から、導入・保守業者にアウトソーシングのような形態で、問題発生時のトラブルシュートまで技術的な用件は全てを委託しているような例も少なくありません。しかし、商用パッケージが普及する一方で、Open Source によるシステム構築、運用を中心にシステム運用管理を行なっている組織もあります。Open Source を用いる場合、トラブルの発見を自組織で早期に発見したり、システム自体にかかる費用を低減できるというメリットが期待できるからです。

組織で導入されているシステムは、そのサービスの内容によって、運用管理を非常に厳しく行なう必要のあるものから、緩やかなものまで様々です。そのため、費用度外視の重要なシステムは商用パッケージで、また、費用を抑えることができるシステムは Open Source で人材育成も兼ねて、というのが理想のように思えます。しかし、昨今のシステム運用を総合的に考えると、理想や導入コストだけで Open Source 導入を決定することは困難であるのが実情です。

このような背景で、システム技術分科会では、最近のシステム運用管理において積極的に Open Source を導入している事例や、Open Source そのものの開発に取り組まれている方とのディスカッションで、システム運用管理における Open Source 導入のメリット、デメリットについて色々な面から、理解を深める場を設けたいと思います。

- プログラム :

-敬称略-

13:00 ~	受付
13:30 ~ 13:40	開会あいさつ 岡村 耕二(九州大学情報基盤研究開発センター)
13:40 ~ 14:30 講演 40 分 Q&A 10 分	<b>[1] オープンソースの上手な活用方法</b> 株式会社びぎねっと 宮原 徹 オープンソースソフトウェアの活用が叫ばれるようになって 10 年ほど経ちますが、ただ単純に OSS を導入すればコストが削減でき、システムの品質が高まるわけではなく、通常の商用ソフトウェアの導入と同様に考慮すべき点があります。特に商用ソフトウェアとの互換性や運用保守体制など、システムの運用面についても考慮しなければなりません。 本講演では、オープンソースを導入し活用する上でのポイントを解説します。
14:30 ~ 15:20 講演 40 分 Q&A 10 分	<b>[2] 早稲田大学における OSS 活用事例</b> 株式会社 早稲田総研インターナショナル 神馬 豊彦 早稲田大学では OSS による全学の事務システムの開発を進め、2003 年より本稼働している。運用当初は人的リソースや開発期間の不足により、一部サービスの停止といった事態を招いたが、開発体制・システムの抜本的見直しにより、現在では安定的に運用している。その利用範囲は事務システムにとどまらず、認証管理、文書共有、LMS にいたるまで、積極的に取り入れている。 早稲田大学のシステムの現状、OSS の選定理由、OSS を利用してみてわかったことなどについて紹介する。
15:20 ~ 15:40	休憩

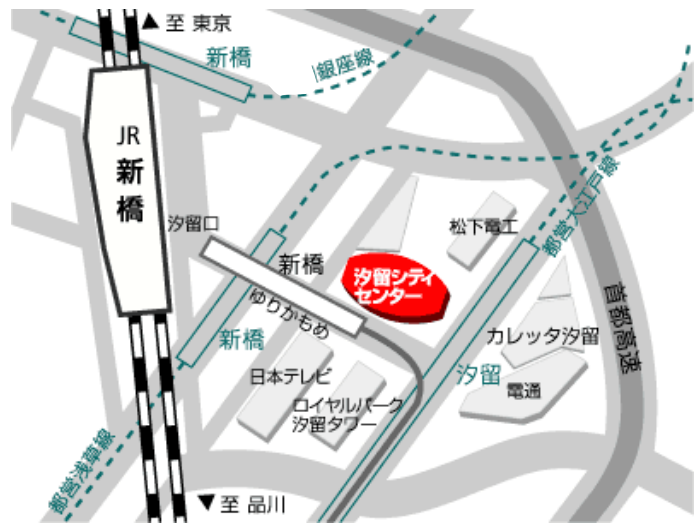
15:40 ~ 16:20 講演 40分 Q&A 10分	<b>[3] オープンソースを活用した高等教育機関の情報基盤の開発と運用</b> 徳島大学高度情報化基盤センター 金西 計英 大学の情報化は進んでおり、さまざまな情報システムが導入されている。その中で、情報システムの連携に対する要求が高まる。具体的には、システム間のSSO(Single Sign On)の実現である。さらに、大学間で情報システムを連携する試みも始まっている。徳島大学での実践に基づき、OSSを活用した大学情報システムの構築と運用について、システム間の連携を中心に、報告をおこなう。
16:20 ~ 17:10 講演 40分 Q&A 10分	<b>[4] 富士通の Open Source への取り組み</b> 富士通 プラットフォーム技術本部 吉田 正敏 オープンソースソフトウェア(OSS)は、オペレーティングシステムである Linux(リナックス)をはじめ、データベースやアプリケーションサーバといったミドルウェアの領域においても適用範囲が拡大してきています。 本講演では、OSSの将来性と課題を提示し、どのような領域や用途で使用されているか、また、富士通がどのような取り組みをしているか、具体的な事例をまじえてご説明します。加えて、富士通の OSS コミュニティへの貢献についてご紹介します。
17:10 ~ 17:20	閉会あいさつ 岡村 耕二(九州大学情報基盤研究開発センター)
17:20 ~ 17:35	ニュースレター編集会議 (出席者: 講演者/企画委員/NL 委員)
17:35 ~ 19:00	<b>懇親会</b> (会費 ¥500)

## ■ アクセス

汐留シティセンタービル オフィスロビー(1階)の受付経由で、24階の大会議室へお越しください。

### <<電車でのアクセス>>

- JR 新橋駅  
汐留口(地下1階)から徒歩3分
- 東京メトロ 銀座線 新橋駅(G08)  
出口4(地下1階)から徒歩3分
- 都営地下鉄 浅草線 新橋駅(A10)  
汐留方面出口(地下1階)から徒歩2分
- 都営地下鉄 大江戸線 汐留駅(E19)  
JR・ゆりかもめ新橋駅方面出口(地下2階)から徒歩1分
- 新交通ゆりかもめ 新橋駅  
出口1Dから徒歩1分



### <<羽田空港から新橋駅までのアクセス>>

- 東京モノレールとJR山手線  
羽田空港 から 浜松町 経由 新橋駅 (所要時間約30分)
- 京浜急行と都営浅草線(直通電車)  
羽田空港 から 都営浅草線新橋駅 (所要時間約30分)

<http://jp.fujitsu.com/facilities/shiodome/>

## ■ ご参加について

- 参加費 : 無料。ただし、懇親会については 会費 ¥500 を申し受けます。
- 服装 : クールビズをお勧めします。(室温 28℃)

## ■ 詳細・お申込みについて

<http://www.sskn.gr.jp/MAINSITE/activity/sectionmeeting/stg/2009-1/program.html>

### 【お問合せ先】サイエンティフィック・システム研究会(SS研)事務局

〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター 富士通(株)カスタマーリレーション部内  
TEL : 03-6252-2582(直通) FAX : 03-6252-2934 Email : [sskn@sskn.gr.jp](mailto:sskn@sskn.gr.jp)